



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行人 末吉卓也 1部60円年間共1100円

道標

04年10月10日〜05年10月29日 「聖体の年」 司教区昇格五十周年 小教区が活性化し 教区が一つとなるように

信徒の召命と使命を学ぶ

奄美大島地区信徒研修会

七月三日(日)、奄美大島地区信徒研修会が名瀬聖心教会聖堂で行われた。今回の研修会のテーマは「信徒の召命と使命―これからの教会をつくるために―」。講師は中野裕明神父(聖心教会主任司教)。大島全島から司教、修道者、信徒約百三十人が参加した。プログラムは午後一時半から二時半まで講話、その後二十分の質疑応答の後、聖体賛美式で閉会した。

中野神父の講話は以下の通り。

- 1 これまでの教会(奄美の場合)、その宣教の歴史と実態・節目。
2 原点に返る。

- ① キリストとわたし。秘跡を生きた。キリスト教入信の秘跡(洗礼・堅信・聖体)癒しの秘跡(ゆるし・病者)奉仕のための秘跡(結婚・叙階)
② キリストと教会。教会に命を与える聖体。(主日のミサ・典礼・祈り)
③ キリストと社会。社会のパン種になるために。(福祉・教育事業)

- 3 信徒リーダー養成のための提案。奄美の教会は現在、少子高齢化という社会の波に翻弄されている。そうした現状で望まれているのは教会の再生であろう。教会再生の鍵は実はイエス・キリストに立ち返ること。教会が再生されるためには信者各自がまずキリストの正しい姿を描く必要がある。そのためにはキリストとの出会いである秘跡の理解を深めることが大切。これまでは洗礼から終油の秘跡(現在は病者の塗油)までの七つの秘跡を一

列に並べ、あたかも通過儀礼のように捉えていたように思われる。第二バチカン公会議の典礼刷新によって、洗礼・堅信・聖体はキリスト信者であることの基礎的な秘跡である。キリスト教入門の秘跡と呼ばれる。ゆるしと病者の秘跡も心身の病を癒し活力を与える聖体へと向かわせる。結婚と叙階の秘跡もその使命を果たすために聖体からその力を得る。この

8月14日(日) 午後5時 カテドラル・ザビエル記念聖堂 古巣聖神父講演 入場無料
ザビエル上陸記念祭
8月15日(月) 午前10時 祇園之洲公園 ザビエル上陸記念碑前
内容 ザビエル崇敬式・聖母被昇天ミサ・平和の福音宣教決意表明・平和の鐘を鳴らそう

信徒リーダー養成へ プログラム作り始まる

信仰養成委

昨年十一月の教区評議会でも問題にされた信徒リーダーの養成について、教区でもこれまで様々な取り組みがなされてきたが、七月十日に教区本部で開かれた信仰養成委員会で信徒リーダー養成コースの具体的なプログラムについて話し合われた。基礎的な養成プログラム案として、福岡サン・スルピス大神学院で行われて

難を排してミサに参加できるようにしなければならず、これはできない、と述べた。「信徒リーダー養成のための提案」については、福岡サン・スルピス大神学院で開催される神学養成講座のことが紹介され、参加者が募られた(参加料一部援助)。奄美の教会が再生されるためには原点に戻ることに、伝道士学校で養成された人たちが那覇教区の礎となったように奄美の教会もそのようなリーダーが求められている。聖体賛美式は大野和夫地区長司式で行われた。講和は分かり易い話だったとおおむね好評だった。

いる神学講座に参加することとし、これに代わる教区独自の講座開設に向けては今後準備を進めていく事が提案された。また、実践的養成プログラムとして、地区レベル、小教区レベルでの養成プログラム案、信徒リーダーがより効果的に小教区で宣教活動ができるように小教区宣教委員会の設置計画案などが提案され、信仰養成委

人事

▼中野裕明神父(聖心教会主任は)、六月二十八日付け、小宿教会主任司教代行を兼務。
▼木村敏彦神父(小宿教会主任)は、病氣療養のため鹿兒島市へ。

司祭の消息

鹿兒島教区の信徒、奉獻者、大きな期待の表れです。この機会に、わたしたちは神のお計らいと先達のご恩に対する感謝のまことを表すため、また主のご期待にこたえて新たな「希望の船出」をするために、「キ

鹿兒島司教区五十周年 記念ミサに向けて

鹿兒島司教 糸永真一

リストこそわれらの希望(一テモテ一)を合言葉に、来る九月十九日、カテドラルにおいて記念ミサを挙げることにになりました。記念ミサでは、ベトナム出身神学生の「鹿兒島教区助祭・司

祭候補者認定式」と二人の「終身助祭叙階式」が行われます。これらは、さまざまな困難、特に司祭召命の減少に悩む中で、再出発する教区の司牧体制を維持しようとする企てを象徴する力と功績に対する教区としての感謝の気持ちを表すもので、教区の主体であり、また期待の的でもある信徒の皆様への激励のメッセージです。記念ミサ後には、教区は「信徒リーダーの養成コース」を新たな構想のもとに開始して、信徒とともに歩み、発展する教区の実現に努めることにしています。信徒の皆様が格別のご理解、ご協力をお願いする次第です。では、教区の皆様、九月十九日、カテドラルで会いましょう。敬愛する皆さんの上に、御父と聖霊の交わりの中で、わたしたちの唯一の希望である主キリストの恵みと平和が豊かにありますように!

夏期集中講座
テーマ マタイ福音書への問いかけ
講師 竹山 昭神父
期間 8月22日(月)〜26日(金)
午前部 10時〜12時/午後部 19時〜21時
場所 ザビエル教会二階ホール
受講料 五百円(受講回数に関係なく)

# キリストこそわれらの希望 (I テモテ1・1)

## 鹿児島司教区50周年記念祭要領決まる

### 【実施要領】

テーマ 希望  
 日時 ○五年九月十九日  
 (月) 十時から  
 場所 鹿児島カテドラル  
 内容

①記念ミサ  
 ・助祭・司祭候補者認定式  
 ・終身助祭叙階式  
 ・教会功労者表彰

②祝賀会

### 【テーマ解説】

「教区」とは、第二バチカン公会議によれば、「自らの牧者(司教)に固く結ばれ、かつ牧者によって福音とミサをおして聖霊において集められ、部分教会を構成する。そこに一、聖公、使徒伝承的キリストの教会が真に現存し、かつ活動する」ものだと言われている。そこで、教区になって五十周年を祝うのだから、司教を中心とする「教区」の交わりと「一致」を理解し、実感する記念祭でありたい。

ところでヨハネ・パウロ二世の使徒的勧告「神の民の牧者」によれば、司教は特別な意味で「希望を預言する者、希望を証しする者、希望に仕える者」と言われている。

司教のもとに集められた部分教会としての教区の五十周年記念祭を新たな「希望の船出」として祝いたい。糸水司教はそのように願って、この度の記念祭の基本理念として「希望」を選んだ。

これに賛同した司祭評

議会は、それを表す最も適当なスローガンとして、一テモテ1・1の言葉から「キリストこそわれらの希望」を選び出したものである。

このスローガンは、単なる美しい標語でもないし、気持を鼓舞するためだけに選んだものでもない。私たちの信仰の叫びとしてのものである。

もともと、キリスト者とは己の力によって生きることではなく、キリストにおいて示された神の救いの業に己を托して生きること、生涯を掛けた者たちである。教区が一種の危機的状況にあることを承知しているからこそ、今一度根源に立ち返り、「私が生きるのであなただちも生きる」と言われたキリストにこそ、今なおわれらの希望があると言言するものにほかならない。

【巡礼団として】  
 「教区の交わりと一致」

を表し実感するためにも、記念祭には、個人としての参加ではなく、各小教区代表としての巡礼団の形で参集して頂きたい。その具体的方法は特に定めない。

### 【お願い】

祝賀会の会場に中庭も使用する予定なので、当日の駐車は不可能になる。不便をおかけすることになるが、公共の交通機関をご利用願いたい。(記念祭準備担当 教区本部)

### カバイヤン セクシオン(概要)

申命記に「あなたの父母を敬え。そうすればあなたの神、主が与えられた地に長く生き、幸いを得る」と記されています。父母と子供たちの関係は普遍的で、最も大切なものです。これが守られるならば世界に平和と喜びが訪れるでしょう。

### 福音の真髄

イエスは、十字架の道を通して復活され、弟子たちに聖霊によるゆるしと平和を与えられました(ヨハネ二〇・一九一三三など)。イエスの福音の真髄は、ゆるしと和解、復讐心の放棄、敵への愛など(マタイ五・二二一二六、三八一四八)に見られます。

### 平和の本質

「平和とは、人間の社会の創立者である神によって、社会の中に刻み込まれ、常により完全な正義を求めて人間が実現しなければならぬ秩序の裏りです。(中略)平和は永久に獲得されたものではなく、たえず建設すべきものです」(現代世界憲章)七八。

戦争の回避と平和教育  
 教会は過去において正

## 平和についての教会の教え

戦論を唱えていましたが、現代の科学兵器や核戦争の危機を目前にして、教皇ヨハネ二十三世の回勅『パージェム・イン・テリス』における提唱から、そのような論理はカトリックの平和論にふさわしくないとされています。

現代の戦闘行為は正当防衛の範囲を超えて、無差別の破壊と殺戮、地球環境の破壊をもたらすからです。ただし、祖国防衛のために兵役に従事することは、必ずしも平和維持に反するとはいえません。恐るべき戦争を回避し、熱心に平和を築きあげる仕事は忍耐と勇気を持たなければ実現できません。そのため、とくに平和教育が必要です。

「カトリック教会の教え」  
 四〇二、三頁より

## 8月

### 【十字架の使徒会祈りの意向】 小教区の活性化

- 1日(月) 聖アルフォンソ
- 3日(水) ルーシン・ヤング神父命日(一九九四年)
- 4日(木) 聖ヨハネ・マリア・ピアンネ(小平卓保神父 霊名)
- ▼レヒナ神父叙階記念日(一九六〇年)
- 6日(土) 主の変容
- ▼平和旬間始まる。15日まで
- ▼平和の集い・ザビエル教会・14時

### 「平和旬間」

一九八一年、教皇ヨハネ・パウロ二世は広島で、「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことである」と言われました。戦争を振り返り、平和を思うとき、平和は単なる願望ではなく、具体的な行動でなければなりません。そこで日本のカトリック教会は、その翌年、もともと身近で忘れることのできない、広島や長崎の事実を思い起こすのに適した八月六日から十五日までの十日間を「日本カトリック平和旬間」と決めました。

「平和旬間」に広島教区と長崎教区では、全国から司教をはじめとして多くの信者が集まり、「平和祈願ミサ」がささげられます。各教区でも、平和祈願ミサや平和行進、平和を主題とした映画会、講演会、研修会、平和を求める署名などが行われます。

- 7日(日) 年間第十九主日
- 8日(月) 聖ドミニコ(田原 章神父霊名)
- 10日(水) 聖ラウレンチオ
- 11日(木) 聖クララ
- 14日(日) 年間第二十主日
- ▼ザビエル祭講演会・17時・ザビエル教会
- 15日(月) 聖母の被昇天
- ▼ザビエル祭・祇園之洲・10時
- ▼枕崎教会献堂記念日(一九五六年)
- 20日(土) 聖ペルナルド
- 21日(日) 年間第二十一主日
- 22日(月) 天の元后聖マリア
- ▼夏期集中講座・ザビエル教会・26日まで
- 24日(水) 聖バルトロマイ使徒
- 27日(土) 聖モニカ
- 28日(日) 年間第二十二主日
- ▼聖アウグスチヌス(橋口啓悟神父霊名)
- 29日(月) 洗礼者聖ヨハネの殉教

### <KABAYAN SEKSIYON>

#### "Igalang mo ang iyong ama at ina"

Ang pang-apat na kautusan: "Igalang mo ang iyong ama at ina". Itinuturo sa atin sa libro ng Dt.5:16- "Igalang mo ang iyong ama at ina, tulad ng iniutos saiyong ni Yaweng Diyos upang humaba ang iyong buhay at mapabuti ka sa lupaing ibinibigay saiyong ni Yaweng Diyos". Na ang ibig sabihin ay nagpapakita ng pagmamahal sa kapwa, lalung-lalo na sa mga magulang. May kasabihan tayo: "Ang pagmamahal sa magulang ay tanda ng isang anak na magalang". Ito ang itinuturo sa atin ng pang-apat na kautusan. Ipinapahayag sa mga anak ang kanilang relasyon sa ama at ina, dahil ito ang pinaka-pandaigdigang relasyon. Ito'y nagpapahalaga hinggil sa pagkaisa ng kaangakanan sa pagitan ng kasambahay ng pamilya. Nangangailangan ito ng paggalang, pagmamahal at pagtanaw ng utang na loob sa mga nakakatanda at ng mga ninuno.

Ang pagmamasid dito sa pang-apat na kautusan ay nagbibigay ng gantimpala: "igalang mo ang iyong ama at ina, upang humaba ang iyong buhay sa lupaing ibinibigay saiyong ni Yawe". Ang pagsunod sa kautusan na ito ay nagbibigay ng espirituwal na bunga, pansamantalang bunga ng kapayapaan at kasaganahan. Ang hindi pagsunod sa kautusan na ito ay nagdadala ng malaking kasamaan sa komunidad at sa bawat isa. Itong kautusan ng Diyos ay sinunod at tinupad din ni Jesus sa kanyang buhay. Sinabi rin ni San Pablo sa kanyang sulat sa mga taga Efeso 6:1-3- "Mga anak, sumunod kayo sa inyong mga magulang: ito nga marapat. Igalang mo ang iyong ama at ina: ito ang unang utos na may pangako sa pagsasabing: upang mapabuti ka at humaba ang iyong mga araw sa lupa".

Kaya mga kababayan, tayo'y bilang mga kristiyan-o, huwag nating kakalimutan ang tungkulin natin sa ating mga magulang na igalang at mahal sila, dahil iyan din ang pagpapakita natin ng pagmamahal at paggalang sa Diyos na buhay.

At ito ang magbibigay sa atin ng tunay na kapayapaan at kaligayahan habang tayo'y nabubuhay pa dito sa ibabaw ng mundo.

Fr. Dino A. Orolfo

# 子供の信仰教育はみんなの責任

## 教会学校リーダー養成講座

教区のカリキュラム委員会主催の教会学校リーダー養成講座が六月二十六日(日)、教区本部で開かれた。これは、毎年秋に行つてい



参加者たちは真剣に講話を聞いた

たカテキスタ研修会をより充実させることを目的として開いたもの。参加者は二十三人。

前半は、カリキュラム委員会顧問竹山昭神父が、教会学校の重要性と昨年成立された小学生のカリキュラムが何を柱として組み立てられているかを説明し、実践をよりよいものとするための具体的なアドバイスをした。

もなりの信仰生活の実践を助けたいことを目的とした教会共同体全体の活動である。信仰を次世代に伝えていく活動を、一部の人しかできないのであれば教会が弱体化していくのは避けられない。

小教区全体の不可欠な活動であるという認識を各小教区で広げ、強める必要がある。それはできないことではない。その上でリーダーの活動がある。教区の現状は惨憺たるものといわざるを得ない。また子どもたちの実情を知る必要がある。最近の子どもたちはだるさを訴えている。これは学校に行きたくない第一の理由。また、夜型になつて

いる。つまり睡眠時間が削られていて、学校で具合が悪くなっている子どもの半分は、朝トイレに行つていない、などかなりきつい状況の中で生きている可能性がある。子どもの状況を少しづつ知る努力が教会共同体全体に必要である。

教区が昨年作成した小学生のカリキュラムは、教会の中でキリストを通して御父を知るといふ現実に従つて作られている。聖霊はキリストを知るとは少し違い、生きながら感じる。イエスが教えられたのは、神と私たちとの現実。そこに私たちを招こうとされた。信仰生活とは私たちがそこを生きることである。生きるためには、知る必要がある。このカリキュラムを実践する具体的なものがカリキュラム委員会できたら

### 短信

▼WYDテーマについて分かち合う青年たち  
八月十六日からドイツのケルンで始まる世界青年の集い、ワールドユースデー(WYD)への鹿児島教区からの参加者たちが、七月十六日(土)に教区本部に集まり、テーマについての分かち合いを行なった。

「わたしたちはイエスを伴ひに来ました」が今回のWYDテーマになっており、今回集まった五人の参加者は、共通の目的であるイエスを伴ひ、その巡礼の出発点である自分たちの日ごろの生活やその問題と悩みについて分かち合った。

▼司教聖名の祝い  
聖ペトロとパウロの祝日を前に教区で働く司祭たちは六月二十八日(火)カテドラルに集い、パウロ糸永真一司教の聖名の祝日を祝った。

▼WYD準備会は鹿児島島では五月に続いて二回目で、七月二十二日にも開かれる。【四面にWYD参加者の声を掲載】

▼WYDテーマについて分かち合う青年たち  
八月十六日からドイツのケルンで始まる世界青年の集い、ワールドユースデー(WYD)への鹿児島教区からの参加者たちが、七月十六日(土)に教区本部に集まり、テーマについての分かち合いを行なった。

### 聖体永久礼拝



#### ベテラン主任司祭

— 垂水教会 —

8月7日(日)ミサ後  
一九五八年、ザベリオ会のタルタリ神父が定住して布教の足場を作った垂水教会。現主任司祭は田原章神父。信徒数二六。

一九六〇年に垂水高校裏の現在地を聖堂に使用。既存の日本家屋を聖堂に使用。現教会は国原武志神父が主任司祭時代に、二年の歳月をかけて改築したもの。イ

タリア産の大理石を使用し、またアンジェラスの鐘を設置、町の名物にもなった。近くにあるカトリック幼稚園は、垂水市唯一のものとして設立された歴史ある幼稚園として今でも人気が高い。

教会の信徒数は少ないが、人口約二万の都市垂水にカトリックの存在を知らせる不可欠な存在である。園長を兼任するベテラン司祭の手腕で、幼稚園に子供を通わせる親たちが

#### 地域宣教に全力

— 始良教会 —

8月14日(日) 15時

国分教会から独立(一九七一年)した加治木教会が将来をにらんで移転し、一九八六年五月に誕生したのが始良教会(小隈憲士神父)。信徒数二五八。

帖佐駅にほど近い同教会が管轄する

教会に興味を示し出し、教会との距離は日ごとに近くなっている。

七月三日(日)にはこの三委員会からの代表を含めた「拡大司牧評議会」も開催されて、外に向けた宣教の方法を探っており、まさに地域宣教に真剣だ。

#### 情報発信基地

— 志布志教会 —

8月21日(日)ミサ後

宮崎との県境に近い曾於市(大隅、財部、末吉の三町)と輝北、大隅、松山、志布志、東串良の一市五町、人口約一万一千を管轄する志布志教会(郡山健次郎神父)。小平卓保神父の出身地でもある。ただ志布志での宣教は一九五一年、ペルリーニ神父(都城教会)によって、小平神父や当時の人たちは都城教会に通っていた。

現在の志布志教会は信徒数八十一。内イギリス人一家六人、フィリピン人妻

とその子供約三十人、ゲアテマラ人一人と外国人が多いのが特徴。港に近いため外国籍の船の乗組員の参列もしばしばあるという。これも主任司祭の持つ独特の懐の深さの現れらしい。その神父の手掛ける教会のホームページと教会報からは侍者を務める子供たちの「祭壇少年隊」やアジアを支援する「アジア会」、そして萎えかけた知力を甦らせてくれる聖書クイズなど楽しい有益な情報に出合える。

▼WYD準備会は鹿児島島では五月に続いて二回目で、七月二十二日にも開かれる。【四面にWYD参加者の声を掲載】

▼WYD準備会は鹿児島島では五月に続いて二回目で、七月二十二日にも開かれる。【四面にWYD参加者の声を掲載】

#### つながりを深める

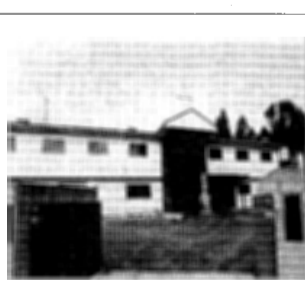
— 国分教会 —

8月28日(日)ミサ後

国分市の繁華街まつただ中にあるのが国分教会(国原武志神父・ザベリオ宣教会)。信徒数一五三。

教会の基礎作りにはザベリオ宣教会の今は亡きザベリオ神父が活躍。教会と幼稚園が現在地に建てられ一九六九年まで都城から巡回家庭ミサに来て、教会に繋がりのある人を探し出したという。

現主任の国原神父は、イタリアはステイグリア出身。一九八九年に日本に帰化し、平和と穏やかさの



# WYDへ期待するもの

## 鹿兒島教区から参加する若者たち

福留利尚  
自分と同じくらい年齢の人達と一緒に多くのことを学び多くの友を作りたいたいと思います。(志布志)

池之上ジエムス博  
自分の信者として人としての意識を確認したい。これを機に、信仰から離れていく若者との対話をどのように増やしていくかを考えることが私たちにできることだと思う。(志布志)

久保 泉

三人の博士のように私たちも何か光となるものをもって、他の青年たちと一緒にイエス様を感じる事ができたらいいな。  
若者だからこそできることもたくさんあるはず。まずは青年としての「共同

体」をもっと強いものにしていきたい。(川内)

向井伸志

「わたしたちはイエスを拝みに来ましたが」この目的を持った人々を共同体として関係を持つことは、国・人種・文化・言語の違いを超えた広い視野を持つことができると思います。キリストの共同体とは、教会の家族とは何かということとを体験することだと思います。(平土野)

勝 貴子

教会に行かなくなっていた私だが、クリスマスミサの時配られたパンフレットのパパ様の顔に惹かれました。  
世界中の若者が希望を持って集まるWYDでイエ

# 集い

## ●平和の集い

8月6日 (土) 14時 ザビエル記念聖堂 主催/鹿兒島カトリック連合壮年会・鹿兒島ユネスコ協会

## ●広島教区「被爆60周年平和行事」

世界平和記念聖堂他 8月5日 (金) 13時30分 ピースウォーク、被爆者証言、祈りの集い、平和祈願ミサ 8月6日 (土) 6時15分 諸宗教祈りの集い、広島原爆犠牲者追悼ミサ、平和を考える集い他 問合せ広島教区平和行事実行委員会TEL082-221-6017

## ●長崎大教区「被爆60周年平和祈願祭」8月9日 (火)・たいまつ行列 19時 (集合) 天主公園・平和祈願ミサ 20時平和公園

## ●聖パドレ・ピオの集い 指導:ペトロ神父 (カプチン・フランシスコ会) 内容:聖体顕示ロザリオの祈り ミサ 癒しの祈り

場所:鹿兒島カテドラル 9月22日 (木) 14時~17時 名瀬聖心教会 9月23日 (金) 14時~17時 ※両会場とも13時30分からゆるしの秘跡 主催:小さく貧しい祈りの集い tel0997-52-0339

ス様を信じるという共通の喜びを互に分ち合えるのではないかと思います。(鴨池)

新福紫乃

今度のWYDは、教会に通い始めたころの心に響いてきたものやあの時の気持ちを思い出させてくれると思います。祈ること、イエスを拝むことを改めて見つめ直したいです。(鴨池)

小郷亜紀子

信仰は、自分ひとりでは出来ず、自分ひとりで持つ人々で成り立つ共同体の支えなしでは存在しえないものだと考えています。今回のWYDを通して、自分のそう思った思いを強めていけたらと思います。(ザビエル)

前田 慧

青年の様々な活動で、

# 文芸

## 俳句 (思川俳句会作品)

鹿兒島 徳永ノブ子  
生かされて神に感謝の薔薇を分け

(評) 「生かされて」が佳句とした。

純心学園 田村鏡子  
あじさいの色にさそわれ句に画く

(評) 「色にさそわれ」がよい。

鹿兒島 春山マリ子  
彼と呼ぶ私の夢の王子様

出水 遠竹睦郎  
夏草や匂へる程に茂りたる

鹿兒島 本城 愛  
赤トンボ走る車の屋根走る

純心学園 山頭信子  
葛葉人影遠き窓飾る

名瀬 松畑義弘

炎天のいかに御座すと長電話

(評) 「いかに御座す」は個性的好句。

阿久根 中津濱フサエ  
逝きし友心に残る好事あり

鹿兒島 龍門司真人  
主に語る祈りも親し夕べかな

## 短歌 (思川短歌会作品)

大口 森 博伸  
在りし日の君が語りし言葉なり絶望するは大罪なりと

(評) 上の句は深い信仰を感じさせる。結句はやや個性性的。

名瀬 林 明子  
にんじんがきらいだったらりんじんをあ

(評) 口語短歌の呼びかけがよい。

阿久根 中津濱フサエ

若くして召されし友を偲びをり神の恵みに安らぐ顔を

出水 遠竹睦郎  
大分の街を歩けば靴磨き老いし人ありて吾れを手招く

鹿兒島 春山マリ子  
あの人の温もりが唯胸包み一時の間に幸せ満つ

鹿兒島 前田儀子  
底ごもる悲しみのわく妹の墓石に白きせきれいは待つ

古仁屋 豊島忠司  
葡萄酒とパンの祭儀にあづかりし御聖体をば改めて食む

鹿兒島 田平新太郎  
明け方の聖堂の静寂清々しロザリオの祈りめぐる刻の間

# 縮刷版発行

鹿兒島教区報

信者がもつと広い範囲で共に活動することの素晴らしさを知りました。教会と青年たちと、世界一緒に集まり一体感が得られるのではないかと思います。ドイツでイエス様が待つておられるのでしようか。(ザビエル)

教区では司教区創立五十周年記念事業として、教区史にとつて資料価値の高い「鹿兒島カトリック教区報」(一九六二年創刊号から二〇〇四年十二月号)の縮刷版(A四判)を今年九月中旬発行することにした。

この縮刷版(一部四分冊)は、希望者にも配布することになっている。一般配布予定数は百五十部で、希望者には縮刷版発行協力特別献金をお願いする予定。問合せは教区本部まで(TEL 099-226-1510)

# ザビエルさまの散歩道 希望に満ちて

今年もまた、八月がやってきました。八月は日本にとって特別な時期でもあります。子供達にとっては夏休みの時期で、楽しい思い出がいっぱいでしょう。古くから、「お盆」の時期として先祖や亡くなった方々を思い返してお墓参りをします。また、戦争の傷が思い起こされる時期でもありま

す。日本のカトリック教会は特に八月六日から十五日を平和旬間として、平和に向けて祈ることを勧められています。そして、平和の福音ともいえるキリストの教えを日本に広めるためにザビエルが上陸した日が八月十五日です。「長い時日を要する危険極まる航海」にもあきらめず、「インドにおけるよりも豊富な収穫を得るに違いない」と希望に満ちてザビエルは上陸しました。日本についてからも、日本語はまったく解らなかつたのに、「知識欲旺盛」で「礼儀正しい」「道理を好む」日本人を見

て、「この地は救霊の成果を上げられるためによく整えられている」と感じ、宣教への希望に満ちていました。  
八月は日本の教会、鹿兒島教区にとつても大切な時期です。平和について考え、平和の福音を伝えてくれたザビエル、この福音を私たちに引き継いでくれた教会家族の総ての先祖のために祈りましょう。真の平和の実現の為に希望と熱意を新たにしたいものです。  
八月十五日は皆さん是非、ザビエル上陸記念祭にお越しください。

# エイズポスターコンテスト

◆内容 エイズに関するもの全般 ◆サイズ A4~A2判 ◆部門 ①高校生以下の部 ②一般の部 ◆応募方法 裏面に必要事項を明記の上、事務局まで郵送 ◆応募メ切 2005年8月31日 ◆応募規定 応募作品は自作未発表のもの。作品ごとに、裏面に氏名、年齢、住所、電話番号、学校名と学年/勤務先、所属している教会があれば教会名、部門(①か②)を記入。入賞作品の著作権は主宰者に帰属し、ポスター製作や巡回展示など、今後のAIDS予防啓発事業に活用することがあります。応募された作品は原則として返却いたしません。 ◆主催 カリタスジャパンHIV/AIDSデスク エイズポスターコンテスト実行委員会 ◆応募・問合せ先 エイズポスターコンテスト事務局(〒135-8585 江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館 HIV/AIDSデスク ☎03-5632-7920 eメール hiv aids@cbcj.catholic.jp ◆入賞者 発表 2005年9月23日 カトリック新聞紙上 掲示 2005年9月23~25日「正義と平和全国集会 横浜大会」会場



へえ、日本の教会は今こうなんだ... ザビエル  
カトリック新聞は、日本のカトリック教会唯一の週刊全国紙です。全国、海外の購読者様のお手元へ毎週直送いたします。また、全国のサンパウロ・女子パウロ会書店でも販売しております。

週刊カトリック新聞  
1部本体価格150円(税・送料別)  
購読料金(前納、税・送料込)  
半年4740円・1年9480円  
見本紙贈呈いたします  
〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館5階 カトリック新聞社  
TEL 03-5632-4432 FAX 03-5632-7030 Email kodoku@cwjpn.com